

うくひすの初音もまたでいたつらに

ちりて甲斐なき宿の梅か香

きみが手向けの までころは
こけむすかげの 其の人の
いかにあはれと おぼすらむ

旅

布士廻舍

隙行く駒にうち乗りて

こゝろの燈火廻りつ、

繁り合ひたる文の道

思へば隙なき旅路かな

葉ぎくら

つ ね を

いとしや姉の君に、別れしこと、
思ひいでゝは、折々哀しめる人に

めぐし子おきて

母おきて

はらから棄てゝ 人知らぬ
遠き黄泉に 旅ねして

かへらぬ人の

いとほしや

庭の葉ざくら

ひと枝を

